



上菅田中学校だより

第7号 平成30年11月1日発行

発行責任者 校長 関 恭雄

上菅田中学校 学校教育目標

- ◆学びを深め、実践力を養う
- ◆互いを認め、自分を伸ばす
- ◆豊かな心と健康な体をつくる
- ◆地域の一員、国際社会の一員であることを自覚し、行動する

秋楽会

10月18日、保土ヶ谷公会堂で秋楽会が開催されました。午前の合唱も午後のアトラクションも、感動の連続となりました。

合唱の部 金賞受賞クラス

(敬称略)

		課題曲		自由曲		
1年1組	COSMOS	指揮者	小川 遥菜	涙をこえて	指揮者	須永 汐南
		伴奏者	杉本 柚月		伴奏者	苅部 涼帆
2年1組	モルダウ	指揮者	山口 大夢	心の瞳	指揮者	大野 豊
		伴奏者	有田 萌果		伴奏者	相澤 耶弥
3年2組	大地讃頌	指揮者	照井 咲貴	言葉にすれば	指揮者	北澤 勇翔
		伴奏者	鈴木 聖菜		伴奏者	佐藤 結南

金賞受賞クラスの合唱はもちろん、どのクラスの合唱も本番2週間前の体育館でのプレ合唱（学年ごとの予行練習）の時とは比べ物にならない素晴らしい合唱を披露してくれました。私も審査員を務めました。点数をつけるのがとても難しかったです。音楽科の寺田先生が、私の隣の審査員席で悩みぬいた末に点数をつけている姿も印象に残りました。生徒のみなさん、感動をありがとうございました。午後の英語スピーチ、国際平和スピーチも素晴らしかったです。昼休みの「ららランチ」や有志生徒によるコントやダンスやサイレント劇、そして吹奏楽部の演奏も、楽しくて笑顔があふれ、心が躍る発表となりました。有志出演のみなさん、そして秋楽会を準備から当日の運営まで支え続けてくれた秋楽会実行委員のみなさん、本当にありがとうございました。閉会式での秋楽会実行委員長（3年目谷愛叶璃さん）の最後のあいさつがとても心に残りましたので紹介します。



「今年は例年より練習時間が短く、なかなかまとまらなかったクラスもあったのではないのでしょうか。しかし、今日、各クラスそれぞれの思いが歌を通して伝わり、私の中では全クラスが金賞でもいいのではないかと思います。しかし、結果が全てではありません。それまでの過程が大事なのです。『賞というものにとらわれず、合唱を通じての達成感や仲間との絆や思い、そして何より仲間と努力してきた時間が一番大切』ということ、みなさんに感じてもらえたらいいなと思います。音楽というものは、仲間がいるからこそ、無限の可能性を持つとても素晴らしいものです。今日まで頑張ってきた自分たちをほめてあげましょう。」

児童生徒交流日 10月12日(金)

上菅田小学校、笹山小学校の6年生が来校し、希望する教科や部活へ分かれて授業体験と部活動体験を行いました。小学校では最高学年の6年生も中学校では初々しく見えます。案内や部活動指導にあたった中学生がいつも以上に張り切って、生き生きとしていたのも印象的でした。

体育館での各部の部長による部活動紹介



読書の秋

めっきり涼しくなりました。読書の秋です。通勤や出張で電車やバスに乗っている間が私の読書タイムですが、本屋さんでの立ち読みも大好きで、雑誌から文芸書、実用書まで気になった本は何でも手に取って目次や裏表紙の内容紹介に目を通します。もちろん、読んでみたいと思えば購入することもあります。最近では文庫本でも1,000円近くするものが増えて、本の価格がずいぶん高くなったことが気になりますが、それより気になるのは本屋さんの数が減り続けていることです。私が住んでいる町にも多い時は5軒の本屋さんがありました。現在はスーパーの中の本屋さん1軒になってしまいました。さびしいことです。しかも、置かれているのは雑誌と売れ筋の新刊本が中心で、ちょっと古い本を探しても見つからないことがほとんどです。その結果、本は本屋さんで探すよりネット通販で探したほうがすぐに見つかりすぐには買えるということになります。私も、すぐに読みたいと思った本のほとんどをネット通販で購入するようになってしまいました。一度購入すると、購入履歴をもとに同じ系統の本をサイト上で薦めてくることには、便利なような、薄気味悪いような複雑な感覚をおぼえていましたが、最近はそのような感覚も麻痺してきました。検索や購入の履歴や位置情報などを含むビッグデータを活用した販売促進の手法に町の本屋さんが対抗するのは簡単なことではなさそうです。

生徒のみなさんは、見やすく選びやすく借りやすい上中の学校図書館を最大限に活用して、読書の秋を楽しんでください。

図書館は、ドラえものの“どこでもドア”のような所です。過去、現在、未来、夢への扉が開かれています。思いもかけないところで人や社会がつながっていて、物事の仕組み、人の想いや人生に触れる事ができます。1冊の本は、文章はもちろんのこと、横書きにするか縦書きにするか、文字のフォントの種類や大きさをどのようにするか、紙の空間をどのように使い、どのように装丁するか、様々なこだわりと多くの想いが結集されています。今、大量生産をせずに手すきの紙に1枚ずつ手刷りで印刷し、製本まで手作りして素敵な本の出版を続ける小さな出版社タラブックスの取り組みや価値観も世界中で注目されています。ぜひ、心の中にタケコプターをつけて図書館を活用して視野を広め、自由に想いを深める秋を過ごしましょう。みなさんがどう未来を創造するのか楽しみに応援しています。いつでも図書館でお待ちしています。

(学校司書 増田 聖子)